

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年10月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676800156
法人名	社会福祉法人 橋友会
事業所名	グループホーム南の家族
所在地	鹿児島県志布志市志布志町志布志二丁目27番18号 (電話) 099-472-8486
自己評価作成日	平成28年9月26日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成28年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、緑が多く海や公園・買い物に便利なショッピングセンターにも近い場所に位置しており自然に恵まれて、散歩や買い物などにはいつでも出掛けられる環境にあります。ケアについては、理念・ケアのモットーを掲げて、その人らしく生活して頂けるように一人ひとりの意向を尊重し、ゆっくりと待つケアを目指して、取り組んでおります。健康面においては、定期的な訪問診療による診察や訪問看護ステーションから週に一度の訪問を依頼しております。常勤看護師もおり、医療連携が充実して利用者様の健康管理を密に行っております。看取りの支援についても家族、医師、訪問看護師、看護師、介護士がチームとなり、本人や家族の思いに沿って行っております。食事は、新鮮な食材や旬のものに拘っており、管理栄養士の協力のもと、献立を作成してもらい、美味しい食事の提供に力を入れております。菜園にて野菜の栽培も行なっており、利用者様と一緒に収穫した野菜も使用しております。野菜の下拵えなど利用者様と一緒に出来る事はして頂きながら手作りしております。口腔ケアについては、毎食前に健口体操を実施、毎食後は歯磨きをして頂くように支援しており、必要時は訪問歯科診療をお願いしております。行事は、毎月の誕生会や法人合同の行事、季節行事にドライブ、バイキング、外食など思考を凝らし、笑顔で楽しくハリのある生活が送れるように取り組んでおります。平成28年9月より共用型通所介護を開始して、他者との交流も増えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは平成15年に「西」「東」の2ユニットで開設されており、地域の中でも歴史を築いているグループホームである。市街地の中心部に位置しているが、辺りは緑も多く、静かな環境にある。4階建ての1階で運営され、階上にはケアハウスが併設されている。グループホーム、ケアハウスの夜勤者は夜勤開始前に一同に集まり、火災や避難に備えてのマニュアルの確認を毎日欠かさずに行っており、密な連携体制で安全への強化を図っている。

常勤の看護師も配置されているほか、定期の訪問診療や訪問看護師の健康管理も行われており、常に適切な指示を仰げる24時間のオンコール体制も整い健康面でも安心な環境下にある。

食にも力を入れており、管理栄養士の作成するメニューを基に、職員の力量で個々に応じた形態で食欲をそそる栄養豊かな食事が提供されている。地元で水揚げされた新鮮な刺身や利用者自ら、栽培、収穫した旬の野菜が食卓に並ぶことも多くある。

職員は全員で話し合った「ケアのモットー」を目標に傾聴を重んじ、利用者個々の想いに寄り添い、見守りを中心に自由で家庭的な雰囲気を楽しんでいる。

2ユニット間のコミュニケーションも良好で全利用者の情報を共有し、自在なシフト体制で連携を築いている。新たに始まった共用型通所介護サービスにも意欲を向け取り組んでおり、今後の展開が益々、期待されるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝全スタッフで「地域密着の理念」「ケアのモットー」を昭和し、個々に意識づけ実践している。	職員全員で話し合った「ケアのモットー」を掲げ、職員は個々の目標も立てている。管理者は都度、振り返りの声掛けを行い、全員で理念の意識づけを図り、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行なう行事に地域の方々を招待している。消防訓練にも参加して頂いており支援サポーターとも密に連携を図り交流を深めている。	管理者は、地域自治会の総会に出向き情報発信を行った年もある、またホーム主催のバイキング式の花見には多くの地域住民を招待している。日常の散歩時での挨拶や近隣の幼稚園児との触れ合い、地域ボランティアも受け入れ、福祉専門学校の教師の実習先にもなっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方々に運営推進会議に参加して頂いたり、家族会で認知症の理解や接し方を伝えている。実習生の受け入れも積極的に行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者様の生活状況や行事などの取り組みを報告し皆様からの意見・要望を伺っている。職員による研修報告、勉強会を開催し、意見・要望は職員会議で話し合いをしサービスの向上に活かしている。	利用者、家族、行政、地域代表他の関係者を交え2ヶ月置きの定期開催である。ホームの現状やヒヤリハット報告、職員の研修発表の場、現在の取り組みなど全てオープンにし外部の目を通した貴重な意見交換の会議になっており、サービス反映に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市の担当者が、運営推進会議に参加されている。生活保護受給者の方もおられるので、報告し連携を図っている。</p>	<p>事業所の運営や事故報告など現場の実情等を伝え理解を得られるように双方で情報交換や連携を取り、良好な関係を築けるように努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会を中心にミーティングや日々の申し送りで話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。業務の中での言葉遣いも「ケアのモットー」に掲げて、周知徹底している。</p>	<p>職員は身体拘束についての弊害を正しく理解しており、「ケアのモットー」にも掲げている言葉使いは特に注意を払っている。管理者は気付きは都度注意を促し、ミーティング時や法人全体でも勉強会を実施しており、抑圧のない自由な暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修参加や勉強会にて、職員が理解をしている。不適切な発言がある時には、その都度注意して、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、該当者はいないが、成年後見人制度については、勉強会などで職員に説明し理解を深めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のケアに関する考え方や重度化の看取りについての対応方針、医療との連携などの内容を詳細に説明している。介護報酬改訂や料金の変更についての説明は個別や家族会などで行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・運営推進会議に、家族・利用者の代表が参加し、意見や要望を伺い、出された意見や要望は職員会議で話し合い、反映している。	担当職員を決めており、利用者ごとの詳細な心身の状況を毎月の便りに添え、現状の理解が得られるように努めている。面会時や家族会、電話などあらゆる場面をとらえ、意見要望の抽出の機会にし運営に反映できるように努力をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し、意見や提案を審議する場を設けている。また個人面談や親睦会などで個々の意見を聞く機会を設け反映させている。	職員は2ユニット間で全利用者の情報を共有しており、双方での応援も支障なく出来る体制をとっている。現場での気付きや意見は都度聞き取り、毎月のミーティング時に全員で話し合いサービス向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態を把握し、労働時間の調整等を行なっている。各自が向上心を持って労働出来るように資格取得に向けた支援や研修への参加を促し、職場環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修にはなるべく多くの職員が参加出来るように計画し、研修報告の場を設けて、全体で知識や情報を把握し向上出来るように努めている。勉強会も職員二人ペアで企画して、進めてもらっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の連絡協議会や研修に参加して、お互いにサービス向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>生活の状況など事前の面談で聞き取り、本人の気持ちや要望等を傾聴する事で安心して生活が出来るように努め信頼関係を築いている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族と事前に面談をし、不安な部分や要望を聞き取り、ケアの仕方などについても話し合いを行なっている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族との面談を行う際に信頼関係を築き、本人・家族の意向を聞き取り、施設サービス計画書に繋げて対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様は人生の先輩であるという考え方を全職員が共有し、生活文化や季節の料理等を教えて頂きながらお互いに支え合う関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子などを家族便りや支援経過記録で家族に伝えている。行事開催時には家族へ参加をお願いし、本人を支えていく為の協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理容・美容室に行ってもらえるように配慮して行っている。また知人が遊びに来られたり、いつでも訪ねやすい雰囲気を作り、交流の支援をしている。	法人間の合同の行事も多く、利用者同士で馴染みの関係が出来ている。自宅を懐かしむ利用者は短時間ではあるが連れて帰り心を和ませている。友人、知人等の訪問や電話や手紙での連絡を取り持つ等繋がりを継続できる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事時間・レクリエーションなど利用者様同士会話を楽しんだり、作業が出来るように職員もなかに一緒に入って支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られてからも面会に伺ったり、こちらに来て頂ける事もあり、継続的な付き合いが出来ている。家族からの相談も随時対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接する中で、思いや希望を傾聴し気持ちを汲み取り把握に努めている。困難な場合は家族等から情報を得ている。	日常的に寄り添い、関わることで本人との信頼関係を築くように努めている。特に入浴など一対一の場面を大切な機会にしている。会話が困難な利用者からは表情や仕草、関係者からの情報で把握に努め本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で訪問を行い本人や家族等から生活環境や生活歴を聞き取ったり、入居前のサービス利用をしている事業所からの情報等で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の記入・確認を積極的に行い、申し送りには日中・夜間の状態を全職員が把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は本人や家族の要望を聞き取り、担当職員一緒にアセスメントを行なっている。カンファレンスは全職員で意見交換が出来るようにしている。サービス担当者会議はなるべく家族・担当者が出席して頂けるようお願いしている。	利用者、家族の意向を中心に担当職員の密な情報を交えて、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を個々にケース記録を行い、記録の確認・申し送り等で情報を共有している。月末にケアの実践などをモニタリングする事で介護計画の見直し評価を実施している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>緊急な通院の送迎、訪問診療・訪問看護との連携を図る等、柔軟な支援に取り組んでいる。不穏時は自宅へ一緒に行ったり散歩をする等の配慮もしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議参加者から地域の情報収集したり情報交換にて協力関係を築いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は本人や家族の希望に沿って対応している。訪問診療や訪問看護との連携により健康管理もしている。必要時は通院介助も行っている。</p>	<p>入所前からの本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。常勤の看護師の配置もあり定期の訪問診療や訪問看護師の健康管理など、医療連携体制も整い、密な体制が敷かれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤看護師を配置しており、利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行なっている。また週1回訪問看護が訪問する際に相談し連携を図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時はサマリーを作成し医療機関に情報提供行なっている。職員が洗濯物を取りに行くなど頻回に面会に伺い、状態を把握して主治医に相談しながら早期に退院が出来るようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化の指針を定めて、本人・家族の意向を踏まえながら本人にとってどういうあり方が良いか家族・医師・職員が話し合いを行なっている。また連携を図りながら安心して納得した看取りが出来るように取り組んでいる。</p>	<p>入居時にホームで対応し得る最大限の支援について指針を定め家族に説明している。段階に応じ、同意書を取り交わし、家族、医療、職員でチームを組み方向性を共有し希望に添える終末期ケアに取り組んでいる。職員は看護師を中心に看取りの勉強会も行っており、不安なく臨める体制をとっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルを作成して、応急手当の勉強会などを定期的に行なう事で全職員の周知徹底を図り、緊急時に対応が出来るよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し、定期的に地域の方々も参加しての避難訓練を行なっている。両館・併設の夜勤者は一緒に消防のマニュアルを毎日唱和して、安全な対応を行なえる体制を作っている。</p>	<p>年1回の消防署立ち合いの訓練には地域住民も参加もし、見守りの役割分担まで取り決めている。独自に系列の施設合同で昼夜間想定避難訓練を行っており、市が主催する津波訓練にも参加しあらゆる災害に備え訓練を行っている。今後、備蓄の充実や家族参加の訓練も視野に入れている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に、排泄介助の声かけ等もさりげなく行い自尊心を傷つけないよう努めている。言葉遣いはプライバシーを損ねないように職員全員が意識付けしている。	利用者に向け、発している言葉や対応に気を配り、尊厳や誇りに配慮したケアに努めている。職員は日常業務の中で馴れ合いの関係にも意識を持ち常に、一人ひとりの人格の尊重を重んじている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、自己決定できるような場面を作っている。意思表示の困難な方には、声かけを密に行い、表情などで読み取って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合わせた過ごし方で、起床・食事時間なども本人のペースに沿って行い、本人の気持ちを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替えは本人にお任せしているが、介助が必要な方は、本人に伺いながら服を選んでいる。行事や外出時はおしゃれな服を選んで頂き、お化粧品もしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はなるべく旬の物を取り入れて、季節を感じて味わって頂くようにしており、筍やつわ・梅などは職員と一緒に下拵えを行なっている。片づけでは流しまで下膳されたり、お盆拭きなどの手伝いをされている。	管理栄養士のメニューに添って、職員の力量で個々に応じ、刻みやミキサー食などで食事の負担感に配慮している。地元の鮮度の高い刺身や利用者が育てた旬の野菜が並ぶことは常時である。弁当持参で花見をしたり行事食を採り入れ季節感も味わっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がカロリー計算したバランスの良い献立を作成してもらっている。また、状態に合わせた献立や量・形態も主治医と連携して提供している。水分摂取は、チェック表を作成して確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを施行し夕食後はポリデント洗浄し清潔に努めている。必要に応じて訪問歯科診療との連携も図って定期受診している方もおられる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成して、個々の排泄パターンを把握している。日中はなるべくトイレでの排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表や一人一人のサインを職員全員が把握し、あからさまな誘導を避け、さりげなくトイレでの自立に向けた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多いものをおやつで提供し水分補給時には乳製品等を摂取して頂いている。便秘症の方には腸の動きを良くするために散歩や水分補給の工夫をし、便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その日のバイタルを確認した後に入浴の声かけをし、体調や希望に合わせて職員の見守り・介助で楽しく会話しながら入浴して頂いている。	両ユニットで身体状況に応じ個浴と機械浴を使い分け、ゆったりとリラックスできる様に個別の入浴支援をしている。気兼ねなく入浴できるように異性介助にも配慮し、1対1での職員との会話も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状態に合わせて休息されている。お昼寝をされる方もおられます。20時頃好きな飲み物を飲んで、他者と寛いだ後に休まれる方やアロマを使用される方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状で内容・用量を把握し、服薬時には利用者様の名前・日付・いつ服用かを声を出しての確認を職員2人・本人とも行なっている。症状の変化がある時は主治医などと連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞・洗濯物たたみやお盆拭き居室の掃除など出来る事はして頂いている。季節行事では外食やドライブ、御家族参加のイベント・菜園作りも取り入れたり、手作りおやつを食べて頂き気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と散歩に出掛けたり、外気浴も定期的に行なっている。地域の行事にも参加している。お墓参りなどは家族と出掛けられる事が多い。行事では花見や外食・ドライブなどは全員が出掛けられるようにしている。	年間行事に花見や初詣等が組み込まれており、父の日の外出で列車の旅を楽しんだ利用者も居る。季節を肌で感じられるようにホーム周辺の散歩や敷地内での外気浴は日常的に取り入れている。地域の祭りや駅伝見学など折に触れ外出の機会が多く持てるように支援している。元気な利用者も多く、年間行事以外にも今後、多様な外出支援に取り組む意向がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の所持をしている方はいないが、家族や本人の意向で預かり金をして職員と一緒に買い物に行けるように支援している。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人希望時、贈り物や手紙が届いた時は職員と一緒に電話で話をして頂いている。はがきを作成して、家族や大切な方に出せるように支援している。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様と一緒に季節の花や手作りした物などで季節感を出している。カウンターには水槽を置き家庭的な雰囲気を作っている。天窗から光が差し込み換気にも気配りして、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。</p>	<p>ダイニングや廊下の壁には利用者と共に作成した作品や行事ごとの写真が掲示され、利用者の日頃の様子が伝わってくる。マッサージ機や歩行用介助バーも設置され、自由に活用している。趣味を持つ利用者が多く、オルガンを弾いたり会話を楽しみながら作品作りに励んでおり、個々が穏やかに過ごせる共用空間になっている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者様同士でホール内のソファや畳敷きスペースに並んで会話を楽しまれている。居室や玄関ホールで一人で過ごされる時間もある。マッサージが使用出来るようにしている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたタンスや椅子、ソファ等を持って来て頂き使用している。居室に家族の写真やお孫さんに頂かれた物・ご自分で書かれた物や塗り絵、カレンダーなども飾っている。	書道や水墨画など趣味の作品を飾ったり、家族が持ってくる季節の花々で賑やかな居室もある。洋風、和風2タイプの居室には個々がそれぞれに思い入れの深い品々を持ち込み、自宅の一室の様に安心して暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの椅子にはご本人が解るように名前を貼って対応している。又、居室前にのれんや飾り物で自室が解るように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない